

「水」は命の源

みなさんが、普段何気なく飲んだり使ったりしている「水道の水」…。
 どのように私たちの元に届けられているのか、知っていますか。
 いなべ市では、井戸等からくんだ水をろ過したり、
 塩素で消毒したりしてみなさんに届けています。
 さまざまな工程を経て届けられている「水」。
 私たちにとっては、命の源ともいうべき、大切な資源。
 いつまでも安心して「水」を飲むことができるよう、
 水道部では日々、水道施設の監視・整備・改良をしています。

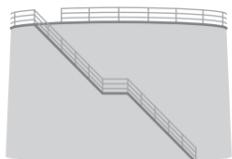
経営のしくみ

いなべ市の水道事業会計は、「地方公営企業会計(市の他の会計とは別)」で、経営に必要な経費は、水道料金などの収入から賄う独立採算を原則としています。
 水道事業会計には、次の2つの予算があります。

- 収益的収支** 水道料金からの収入や家庭に水を送るために必要な経費
- 資本的収支** 水道施設の建設や改良など整備のための経費

施設の整備

水道施設の整備は、災害に備えて配水池の耐震化を進めています。また、万一の故障に備えて老朽化した機械設備等の更新を行い、安全、安定した給水に努めています。
 借入金の返済は、利率の高い借入金の一部8億299万円の繰上償還を行いました。

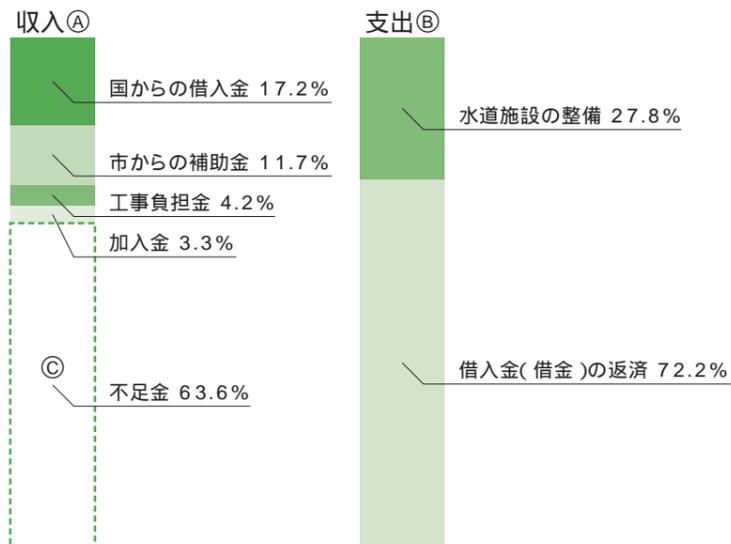


資本的収入と支出 水道施設を整備するための財源と経費

区分	決算額
国からの借入金	2億5,650万円
市からの補助金	1億7,444万円
工事負担金	6,293万円
加入金	5,031万円
合計	5億4,418万円(A)

区分	決算額
水道施設の整備	4億1,484万円
借入金(借金)の返済	10億8,001万円
合計	14億9,485万円(B)
不足金	9億5,067万円(C)

不足金は、留保資金等で補てんしました。



「水」の3コスト

良質で、安全、安心な水道水をみなさんのご家庭に確実に届けていくためには、さまざまな課題があります。例えば、施設の「更新」「耐震」「安定給水」「効率運営」などで、それに必要な財源を確保することが急務となっています。経費削減や滞納者に対する収納の強化、効率的な経営を進めていますが、赤字運営を解消することはできず、毎年、市の一般会計から補てんを受け、市の財政を圧迫しています。

- みなさんに水道水をお届けするのに必要な1m³あたりの費用(製造コスト)... 給水原価
 - みなさんの水道料金1m³あたりの平均単価(販売価格)... 供給単価
- 給水原価...約166円 供給単価...約123円
- 給水人口: 46,762人 普及率: 99%
- 年間給水量: 6,487,080m³ 1日平均給水量: 17,772m³ 1日最大給水量: 23,438m³
- このように平成20年度は製造コストが販売価格を上回っています。
 不足分のお金は、一般会計からの補てんを受け、賄いました。

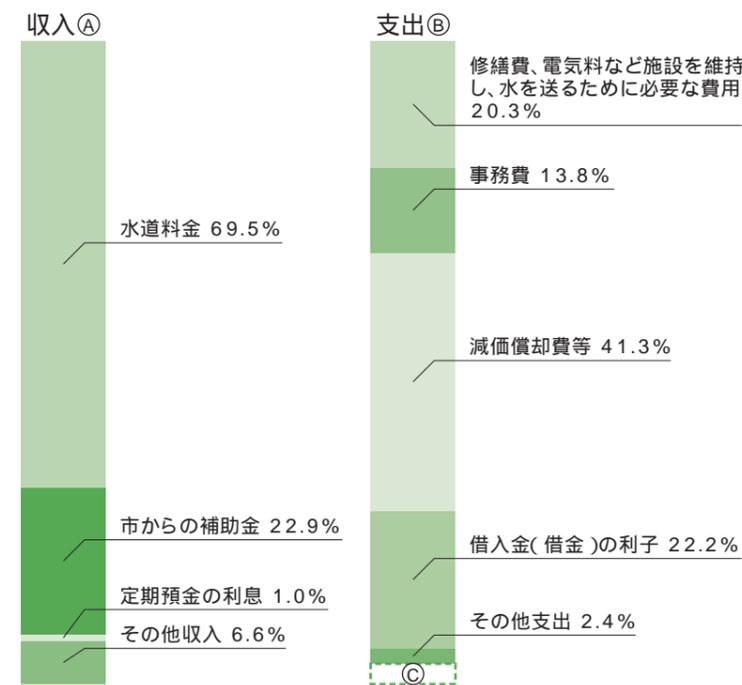
収益的収入と支出 水道事業を運営するための財源と維持費用・管理

区分	決算額
水道料金	6億8,499万円
市からの補助金	2億2,556万円
定期預金の利息	940万円
その他の収入	6,581万円
合計	9億8,576万円(A)

区分	決算額
修繕費、電気料など施設を維持し、水を送るために必要な費用	1億9,417万円
事務費	1億3,121万円
減価償却 費等	3億9,445万円
借入金(借金)の利子	2億1,184万円
その他の支出	2,293万円
合計	9億5,460万円(B)

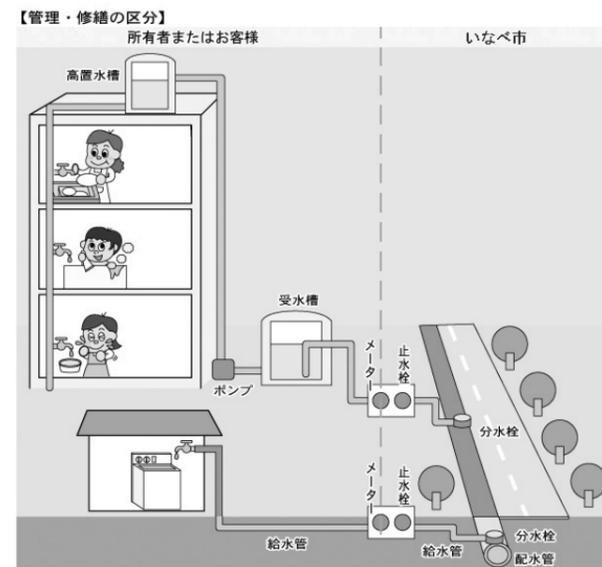
収益的収支差額(利益)	3,116万円(C)
-------------	------------

減価償却とは、設備投資などの費用を一定期間に配分する会計処理のことです。



家庭の水道のしくみ

水道メーター器からご家庭の蛇口までは個人の財産です。設置工事や修理工事は、そのご家庭の負担で行うことになっています。
 安全で良質な水道水をお届けしても、ご家庭に直結している蛇口などがきちんと管理されていないと安心して使えません。給水用具の適切な維持管理に努めましょう。



問北勢庁舎 水道総務課 T 72-3516 F 72-2260

☎=問い合わせ先 T=TEL F=FAX